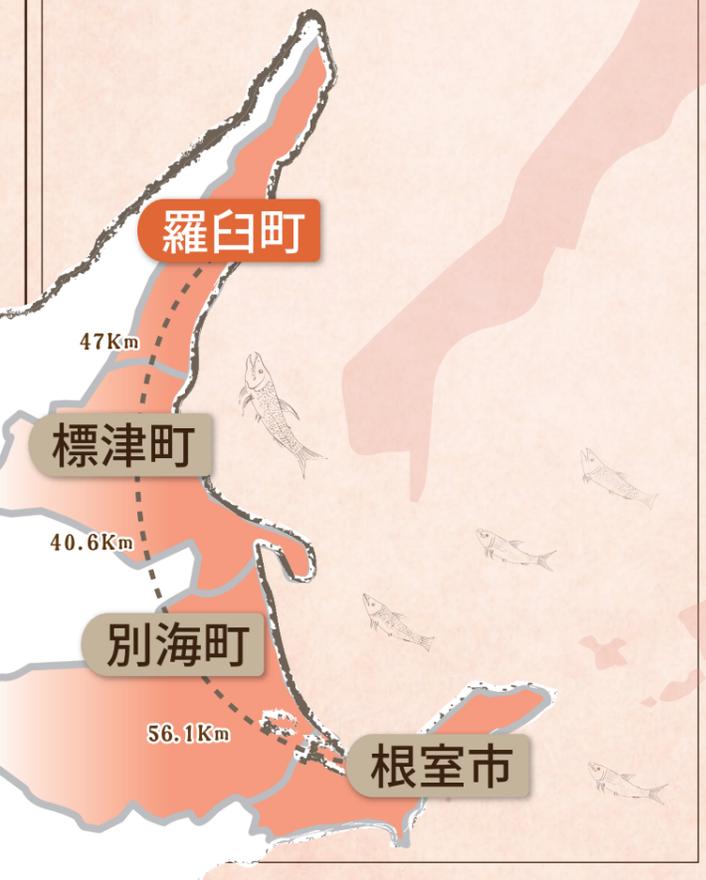




日本遺産「鮭の聖地」の物語
まちめぐりマップ
〜羅臼町〜



「鮭の聖地」を訪ねる夏のおすすめコース

① 羅臼町郷土資料館



北海道松法川北岸遺跡出土品を中心とした、オホーツク文化やトビニタイ文化等のオホーツク沿岸独特の文化についての遺物が数多く展示されている。知床

の豊かな自然の恵みと、時に厳しい一面を見せる自然を畏れ敬いながら、先史時代より、この地に人々の暮らしてきた歴史と文化、自然について学ぶことができる。

TEL: 0153-88-3850



③ ヒグマクルーズ or 観光船

オホーツク文化の頃と変わらない知床半島先端部の景観、遺跡、生き物を洋上から観察できる。遺跡の出土品に描かれ、儀礼の対象でもあったヒグマやシャチも肉眼で安全に見ることができる。



ヒグマクルーズ
ヒグマのダイナミックな活動を船上から安全に観察。



観光船からは、海中のクジラやイルカを観察できる。

✕ 中標津空港

約50分

① 羅臼町郷土資料館 見学 (約30分)

約25分

② 羅臼国後展望塔 (約20分)

宿 泊

③ ヒグマクルーズ or 観光船 (クジラ・イルカ・バードウォッチング) 体験 (約2時間30分)

約5分

④ 濱田商店ホタテむき体験・魚さばき見学・昼食 (約1時間)

約75分

✕ 中標津空港

② 羅臼国後展望塔



天気の良い日には、オホーツク文化の担い手が羅臼より目指した雄大な国後島を眺めることができる展望塔。映像室や展示室で北方領土問題について知ることができる。

④ 濱田商店体験・昼食



オタフク岩洞穴遺跡から多量の魚介類が発掘される等、オホーツク沿岸に暮らす人々には古代からゆかりのあるウニやホタテ。濱田商店では天然ウニ

やホタテをむく体験や、季節の魚のさばき見学等を行うことができる。



▼体験のお問合せは、下記(一社)知床羅臼町観光協会へ

「鮭の聖地の物語」を味わう

根室海峡沿岸は、豊かな自然が育む豊富な漁業資源の宝庫。ここ羅臼でも、鮭の聖地の主役・鮭をはじめとして、鮭がもたらすイクラ、ぶどうエビ、ポタンエビ、タラなど多くの海の恵みを堪能することができる。

全国的に有名な「羅臼昆布」は、漁場として初出荷が記録されたのは1904(明治38)年。現在も味の良さに定評のある逸品だ。

羅臼昆布を利用し、地元で漁師飯として親しまれていたのが「めんめの湯煮」。脂ののっためんめ(キンキ)を羅臼昆布のだし汁で煮て、醤油で食べるシンプルな料理だが、めんめの脂がほどよく落ちて、白身の美味しさが引き立つ。だし汁に染み出しためんめの旨味がたまらない地元飯だ。町内の飲食店で味わうことができるが、その日に提供できるかは問合せを。めんめは、羅臼漁業協同組合の直売所で購入することも可能だが、店頭にあるかはやはり、問合せすることがおすすめ。

「鮭の聖地」のエリアでは、そのまちならでの特別なブランド鮭の取組を進めている。羅臼町では一番おいしい時期の秋鮭の中からさらに目利きの漁師が厳選した鮭を、知床羅臼銀毛鮭「羅皇(らおう)」として扱っている。羅臼の海洋深層水を使用して鮮度管理し、品質・衛生管理をおこなっている逸品だ。「羅皇」には1尾ずつ認定の証のタグが付いている。漁協の直売所で購入することができるので、特別な鮭をぜひ味わってほしい。

※「鮭の聖地」の食・お土産は、裏面の「㊦」「㊧」のお店で!



「めんめの湯煮」昆布だして煮るシンプルな料理



羅臼町ブランド鮭「羅皇」

街めぐりの情報はこちらで!

■(一社)知床羅臼町観光協会
TEL: 0153-87-3360 FAX: 0153-87-4910
mail: info@rausu-shiretoko.com
WEB: https://rausu-shiretoko.com/



■知床羅臼町観光案内所
羅臼町本町361-1「道の駅知床・らうす」内
TEL: 0153-87-3330

日本遺産「鮭の聖地の物語」とは

「鮭の聖地」の物語～根室海峡一万年の道程～は、北海道根室管内の標津町、根室市、別海町、羅臼町に残された文化財によって証明される、根室海峡沿岸の歴史文化のストーリー。「鮭の聖地」の特徴は、毎年秋に繰り返される鮭の遡上という偉大な自然のサイクルが、一万年以上にわたって人々の営みを支え続けてきたことにある。太古の昔から人々を支え、そして今もなお根室海峡沿岸地域の基幹産業として位置づけられている鮭。鮭に笑い、鮭に泣いた人間たちの壮大なドラマ、それが「鮭の聖地」の物語である。

羅臼町～豊かな自然 オホーツク人の世界

オホーツク文化は、サハリンから千島列島のオホーツク海沿岸に広がった、北海道の古代文化であり、かつてメナシと呼ばれた根室海峡沿岸地域もその舞台であった。この文化を担った人たちは北から北海道へ渡ってきた異民族で、日本列島のあらゆる時代の文化と比べても異彩を放っている。



北海道松法川北岸遺跡出土品は、オホーツク文化の生活や精神文化を伝える貴重な資料である。とりわけクマとシャチを一つの容器に彫刻した「熊頭注口木製槽」からは、陸の王者であるヒグマと、海の王者であるシャチを強く崇拝していたことが読み取れる。後のアイヌ文化にみられるキムンカムイ(ヒグマ)、レブンカムイ(シャチ)への崇拝は、オホーツク文化からの影響であったと考えられる。アイヌ文化で形成された、「タチニウス北岸チャシ跡」は、根室海峡北部を代表するチャシ跡であり、河川河口の湊として、また回帰する鮭の監視場として、アイヌの活発な交流の歴史をうかがわせる遺跡だ。豊かな自然を背景に、多くの遺跡が出土する世界自然遺産知床・羅臼町。オホーツク人が生きた当時の景観や自然が残るこの地の今を辿ってほしい。

2022年3月発行
発行元: 根室管内日本遺産推進協議会
鮭の聖地メナシネットワーク

TEL: 0153-82-3674

(標津町ポー川史跡自然公園内)

WEB: http://www.heritage-of-salmon.com/



羅白町

